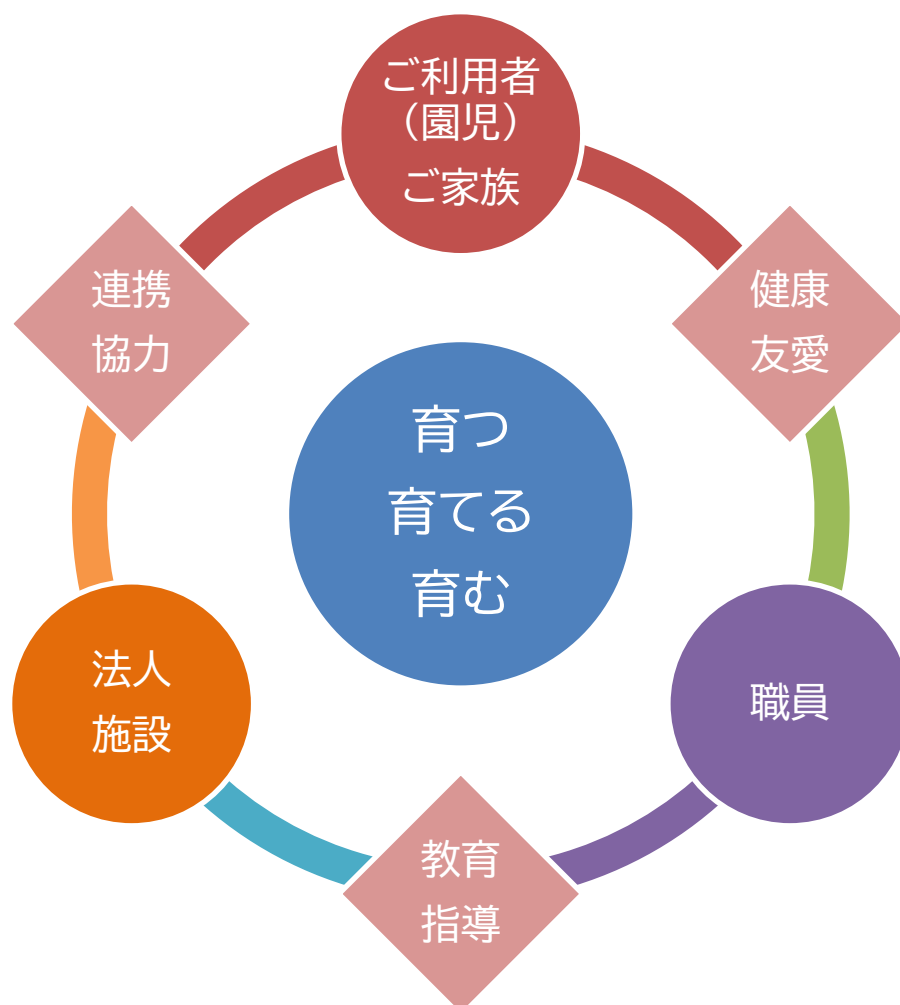


「創立半世紀」に向けて歩み出す第一歩」

キーワード **“共に 育つ・育てる・育む”**

恵寿会は昨年度40周年を迎えました。次は大きな区切りとなる創立50周年です。50周年に向けての第一歩となる今年度、地に足を付けしっかりと地盤を固めて幹の太い法人づくりを行なっていきます。

そのために、まず今年度は「育つ・育てる・育む」これらの必要性を強く感じ、実行していきます。昨年度全ての施設が集約され、新たな再出発を果たした恵寿会において、最も必要となっているのは全ての施設が連携して法人・施設が育つことであり、一緒に働く仲間(職員)たちを育てます。更にご利用者(園児を含む)やご家族との関係をより一層育み、50周年に向けた第一歩を力強く歩き始めます。



1. 法人・施設が育ちます

「ご利用者や園児が生き生きと生活が送れ、職員が働き甲斐をもって仕事ができ、施設が効果的に機能し、地域において外せない存在になる」、これらが維持されていれば必然的に法人は前に進み続けていきます。また、役職員が同じベクトルの思いをもって進むことでその勢いは増すこととなります。法人が持つ資源(ヒト・モノ)を最大限に有効活用し、全ての事業において、全役職員が一丸となって利用率を前年度よりも向上させ、法人の経営基盤を安定化させていきます。

施設については、建設から40年経過となる出雲サンホーム、あと数年で20年が経過する出雲サンサン保育園、そして昨年移転開設したばかりのサン・スマイル、建設後の経過年数によって当然ながらそれぞれの課題も異なりますが、優先順位を検討し計画性のある整備を行なっていきます。

このほか、策定が義務付けされた事業継続計画の随時更新、コロナと共存しながらのボランティア活動、開かれた施設体制と地域における公益的な取り組みなど、法人・施設に課せられた使命を、その発展と共に果たしていきます。

2. 仲間(職員)を育てます

日々、使命感と誇りをもって仕事をしている職員をしっかりと育てます。そしてそれらの職員が笑顔(smile)で働くことが出来るように考えます。

前年度、施設単位の適正人員を検討し、決定しました。そしてそれに沿った職員の確保が一定程度出来ました。今後は適正人員を維持しながら、職員個々のレベルアップのために力を注いでいく必要があります。

現在、ケアスタッフの正職員採用は経験や資格にとらわれないかたちとしており、既存のエルダー制度を更に充実化させること、その一方で一定数の職員をまとめていく指導的職員の育成制度に疎かな部分があり、新職員育成カリキュラムと合わせて指導的職員育成カリキュラムを早期に策定し実施することで、職員それぞれの立場におけるスキルアップを目指します。

また、前年度実施した「働き甲斐アンケート」に記載があった意見について、すぐにでも実現可能なものは取り掛かり、その他のものに関しては検討を重ねつつ、全体としての職員満足度(ES)を高めていきます。

3. ご利用者(園児)をご家族と共に育みます

2年以上にも及ぶコロナ禍の中でご利用者、園児、そしてご家族には大変な苦労や心配が続いてきました。思い描くような生活やその支援が出来ない場面も多くありました。

今年度は、出来る限り通常のサービス提供を行ないながら、個々が望まれる福祉サービスを実現し、ご利用者や園児が生き生きと過ごすことが出来る時間を設け、ご家族や保護者の方々と一瞬一瞬を大切に出来るよう努めていきます。

ご利用者や園児と我々恵寿会が関わる事が出来る時間には限りがあります、新型コロナウイルスを正しく恐れ、感染対策を行なった上で、レクリエーション、課外活動、食事(食育)など、企画していたものを実行に移していきます。また、日々の健康管理やリハビリにおいてもスタッフを充実させその能力を向上し、快適で安心できる体制を整えます。

「育む」という言葉の意味には、「慈しみ大切にする」、「いたわり守る」などがあります。常に人権を尊重した支援を徹底し、ご家族や地域とのふれあいをより深いものとして、次へ繋げていきます。